

第85回 環境システムシンポジウム
令和7年2月7日（金）

滋賀県の取組と企業への期待

滋賀県 琵琶湖環境部 環境政策課
企画・環境学習係 奥村 浩気



Mother Lake
Goals

7月10日

びわ湖の日



面積の $\frac{1}{6}$ が古代湖である琵琶湖

面積の $\frac{1}{2}$ が森林

県内総生産に占める第2次産業の割合
は全国1位



～滋賀は生物多様性の宝庫～

- 琵琶湖を中心に山地・山脈に囲まれた盆地地形の内陸県
- 日本列島のほぼ中央に位置し、生きものの種数は1万を超え、分布の北限、南限となる種も存在
- 豊かな水と自然が近江の食やモノを供給し、文化を育む

琵琶湖

- 世界有数の古代湖で、60種を超える固有種を含め、2,400種以上の生きものが生息・生育
- ラムサール条約登録湿地として、ヒシクイやコハクチョウ、カモ類など毎年10万羽以上の水鳥が飛来する全国有数の越冬地
- 近畿1,450万人の水利用を支える貴重な水資源
- 「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」が日本遺産に認定、さらに、琵琶湖と共生する農林水産業が「森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」として世界農業遺産に認定



豊かな森の四季

日本のトンボ約200種のうち100種が滋賀で確認

(生物多様性びわ湖ネットワーク:県内の企業6社が中心となってトンボ100種の確認を目標に2016年から活動)



県土面積に占める自然公園面積の割合が全国一

琵琶湖、鈴鹿の2つの固定公園、三上・田上・信楽、朽木・葛川、湖東の3つの県立自然公園で県土面積の37.3%を占める

“生物多様性の象徴”

伊吹山

- 県内最高峰。県内の植物約2,300種のうち約1,300種が生ずる植物の宝庫で、山頂のお花畑は国指定天然記念物
- 山頂お花畑や登山道のある南側斜面では、植生の衰退や裸地化が進んでいる。これに加え、南側斜面では、降雨の影響により土壌浸食が進行

“企業等による保全の取組を国が認定”

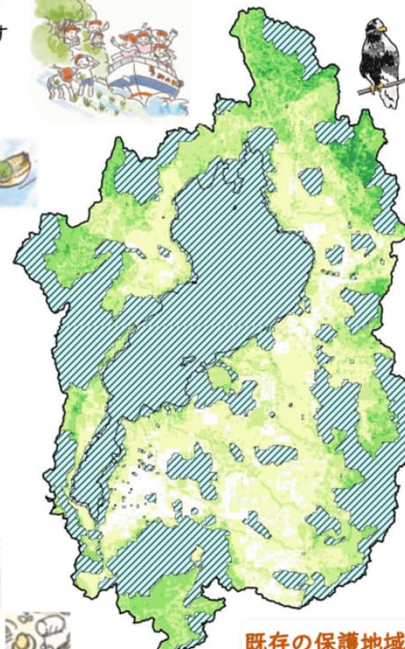
自然共生サイト

「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が認定（保護地域との重複を除き、「OECM」として国際データベースに登録）

2023年度 10件認定(全国184件)

- 龍谷の森(大津市38ha)
- 叶匠寿庵 寿長生の郷(大津市17ha)
- 奥びわ湖-山門水源の森(長浜市63ha)
- パナソニック草津工場「共存の森」(草津市1.3ha)
- みなくち子どもの森(甲賀市25ha)
- 太陽生命くつきの森林(高島市21ha)
- 積水樹脂物流センター 生物多様性保全エリア(東近江市2.3ha)
- サカタの森(米原市0.7ha)
- サントリー天然水の森 近江(日野町175ha)
- 積水樹脂滋賀工場 生物多様性保全エリア(竜王町2.6ha)

計345.9ha



既存の保護地域は県土面積の41.6%

→長期的には“琵琶湖(16.7%) + 30%”へ(46.7%)

(色が濃いほど、生物多様性の価値基準に該当していることを示す)

サイエンスエコツアー

学術研究の成果も含めてより深く
学びを得るエコツアー



サイエンスエコツアー

ガイド人材の育成講座の実施



7月10日
びわ湖の日



サイエンスエコツアー

講座受講者（地元NPO団体）による実践



「アユのいる愛知川を知り、川を守ろう！」

14人参加、3,500円/人



「琵琶湖の固有種ビワマスの上見に行こう！」

14人参加、2,500円/人

MLGs (琵琶湖版SDGs)



MLGs みんなのBIWAKO会議



MLGs みんなのBIWAKO会議



○分科会

「MLGsとネイチャーポジティブ経営」

企業への期待

ネイチャーポジティブは地域と企業をつなぐキーワード。

地元の生物多様性保全を地元の人と一緒に進めていきましょう。